

# 2009年度 決算概況

(2009年4月～2010年3月)

富士フイルム ホールディングス株式会社  
2010年4月30日

**注意** 本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

## 2009年度連結業績

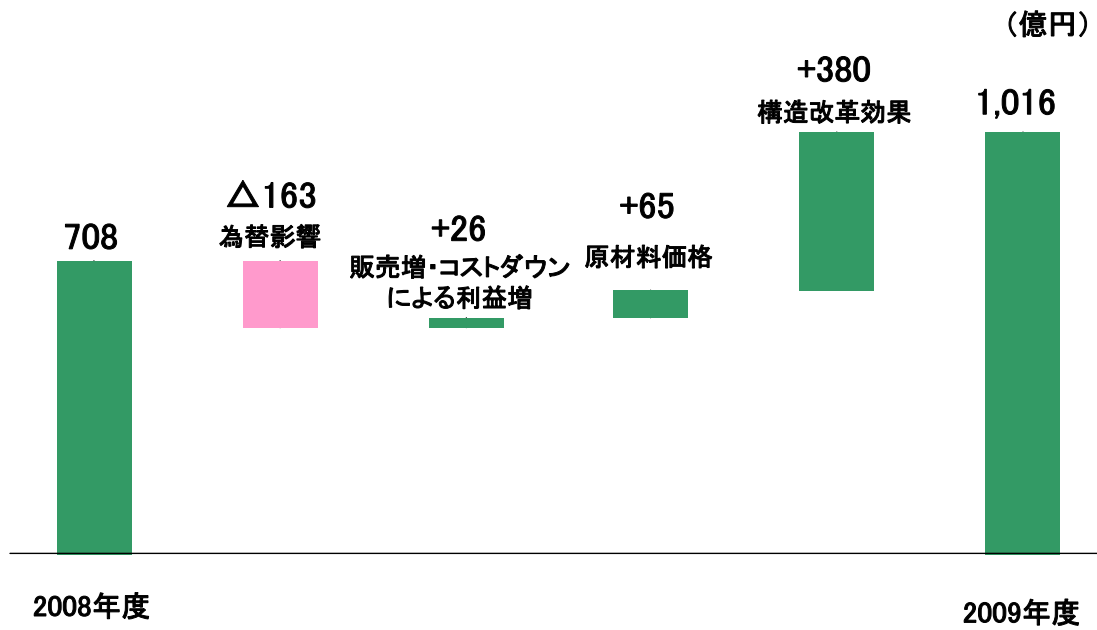
業績予想を大幅に上振れ、構造改革費用前営業利益は前年比+43.6%

(単位:億円)

	2008年度		2009年度		増減		(参考)2009年度 業績予想(1/29)	
	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%
売上高	100.0%	24,343	100.0%	21,817	-2,526*	-10.4	100.0%	21,700
構造改革費用前 営業利益	2.9%	708	4.7%	1,016	+308	+43.6	3.7%	800
構造改革費用	1.4%	335	6.6%	1,437	+1,102	-	6.7%	1,450
構造改革費用後 営業利益	1.5%	373	-1.9%	-421	-794	-	-3.0%	-650
税金等調整前 当期純利益	0.4%	94	-1.9%	-420	-514	-	-3.1%	-680
当社株主帰属 当期純利益	0.4%	105	-1.8%	-384	-489	-	-2.4%	-520
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益		21.10円		-78.67円		-99.77円		-106.43円
1株当たり配当金		30円		25円(予定)		-5円		25円
為替 :米ドル		101円		93円		-8円		93円
:ユーロ		145円		131円		-14円		131円

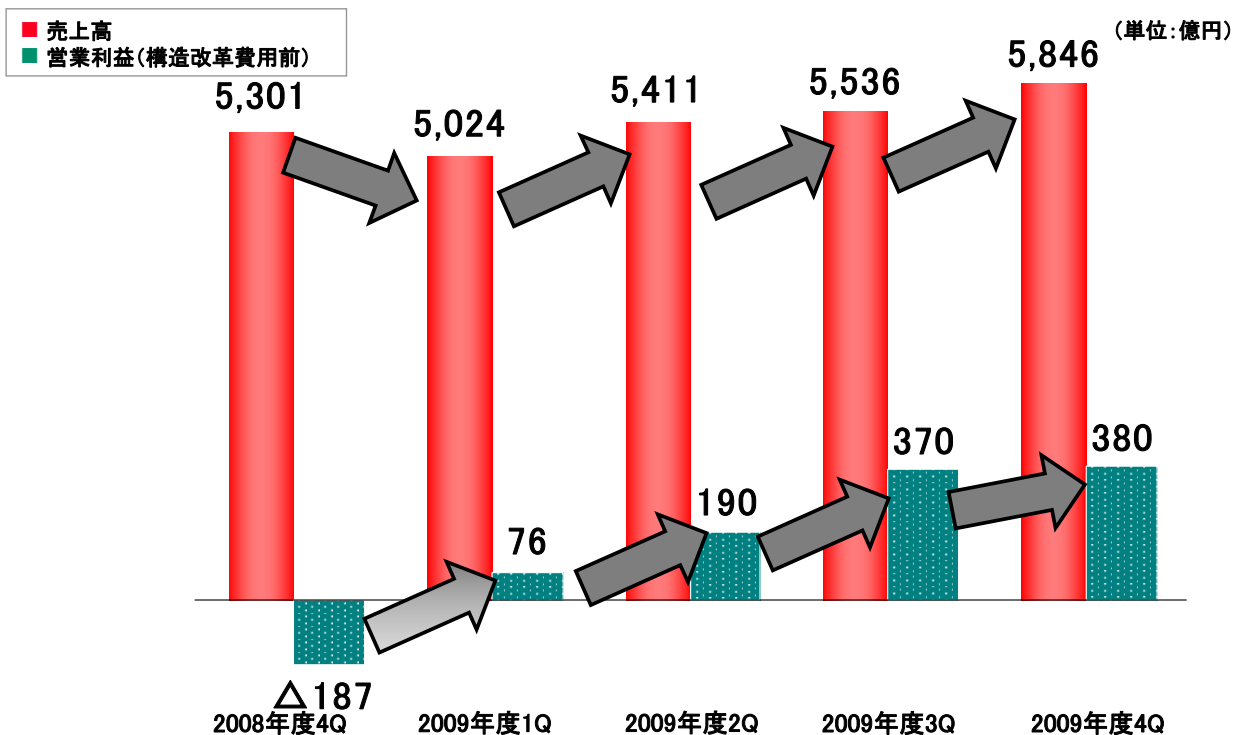
\* 為替円高影響 △901億円

## ■ 2009年度構造改革費用前営業利益増減要因 (対2008年度)

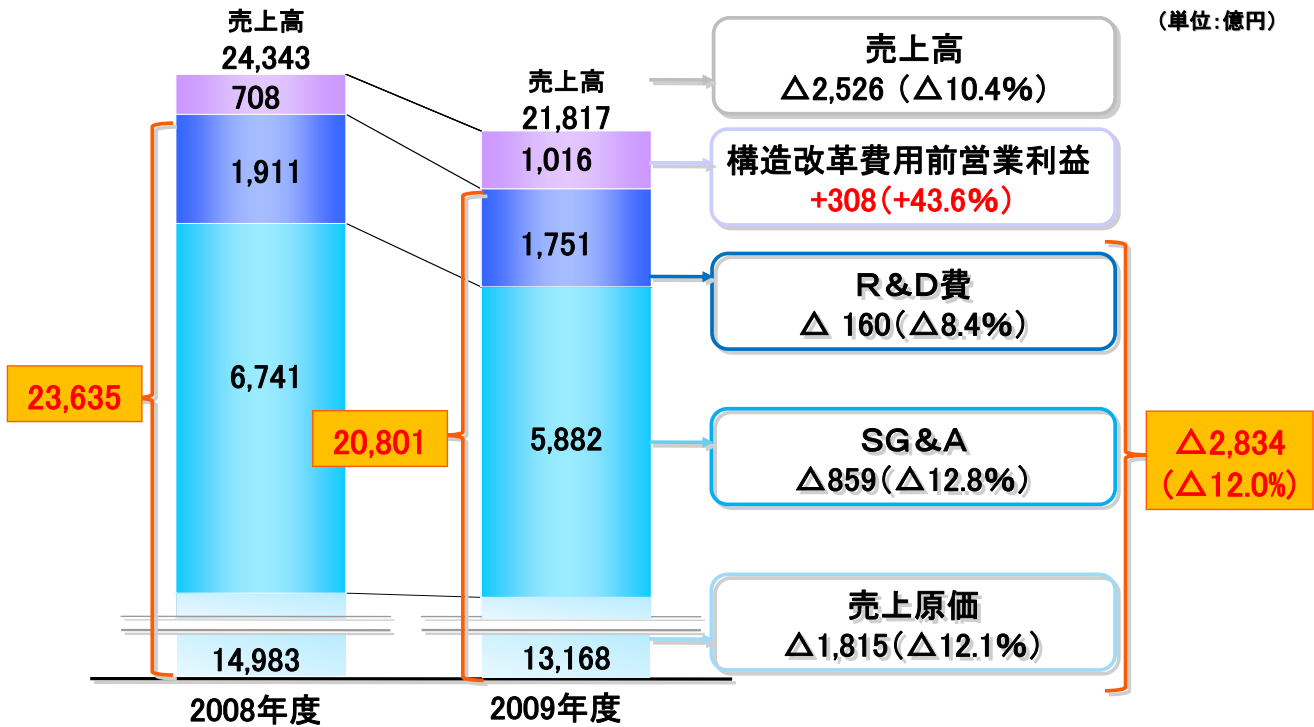


# 2009年度四半期別連結業績

売上高・営業利益ともに順調に回復



R&D費・SG&A・売上原価削減額は売上高減少額を上回る。  
構造改革費用前営業利益は前年比+43.6%と大幅増益を実現。

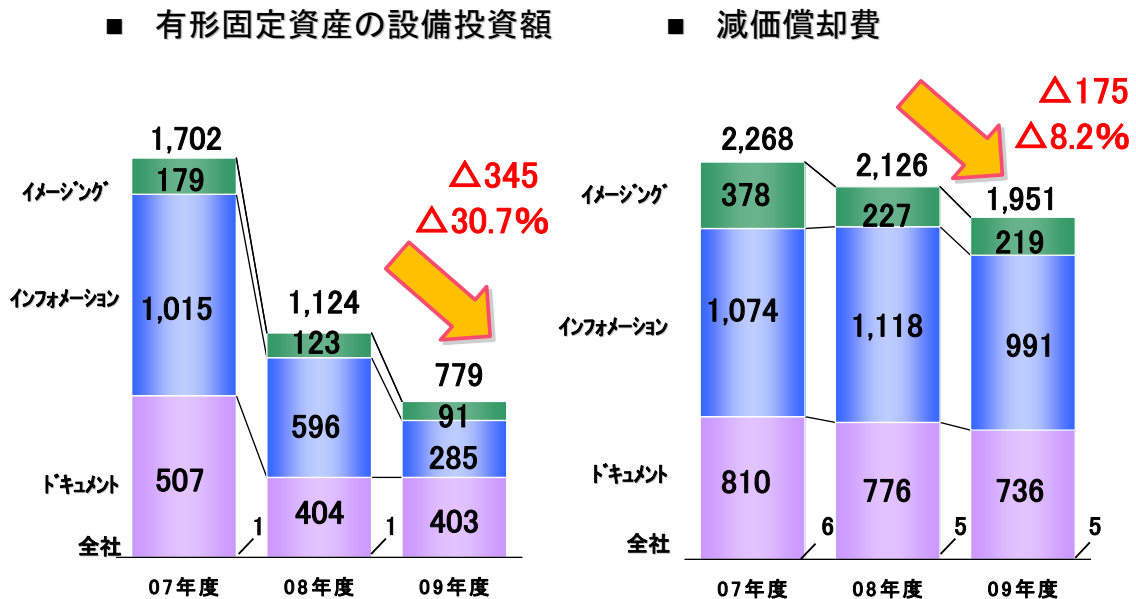


\* 2008年度、2009年度ともに、R&D費、SG&A、売上原価は構造改革費用を除いた数値です

# 設備投資額と減価償却費

設備投資を大幅に圧縮。減価償却費も順調に減少

(単位: 億円)

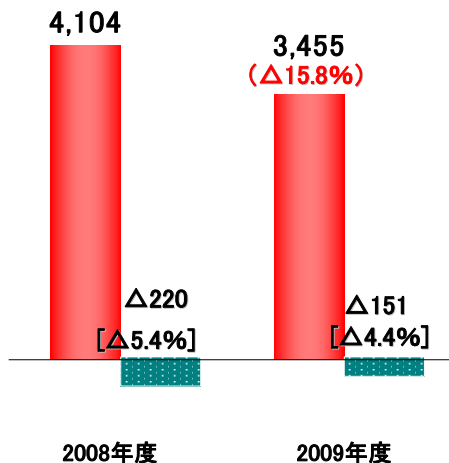


## ■ イメージング ソリューション

### 売上高\*・営業利益

■ 売上高  
■ 営業利益(構造改革費用前)

単位:億円  
[]:営業利益率  
( ):前年比



#### 売上高

3,455億円 (前年比 15.8%減)

- カラーフィルム等のフォト分野の市場縮小に加え、為替の円高影響により売上は減少。
- 為替円高影響  $\Delta 257$ 億円 ( $\Delta 6.3\%$ )

#### 営業利益

構造改革費用前  $\Delta 151$ 億円 (赤字縮小)  
構造改革費用後  $\Delta 692$ 億円 (赤字拡大)

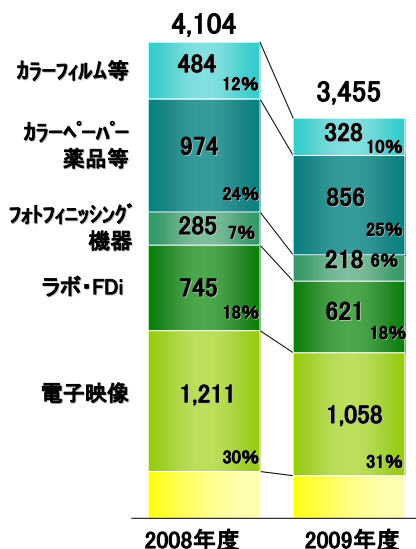
- カラーフィルム等の販売が減少したが、デジタルカメラの損益改善により赤字幅が縮小。

\*セグメント間取引消去後

# 事業別セグメント情報

## サブセグメント売上高

単位:億円  
%:売上構成比



#### カラーフィルム等

328億円 (前年比: 32%減)

- 市場縮小による売上減少が継続するが、当社市場シェアは上昇。

#### カラーペーパー・薬品等

856億円 (前年比: 12%減)

- フォトブックやオンラインフォトサービスなどの付加価値プリントの販売促進等をはじめ、拡販諸施策により主要国においてシェアを拡大。

#### 電子映像

1,058億円 (前年比: 13%減)

- 販売単価下落や円高の影響を受け、売上は減少。
- 「FinePix F70EXR」「FinePix REAL 3D System」等の高付加価値商品からコスト競争力を強化したエントリーモデルまで、ラインアップ強化。
- 2009年度のデジタルカメラ販売台数は、ワールドワイドで約900万台(前年比10%増)。
- 部材コストダウン及びサプライチェーンマネジメント改革が功を奏し、事業営業利益は黒字化。

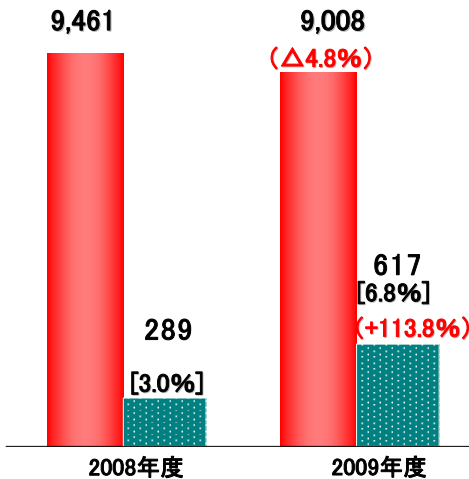


## ■ インフォメーション ソリューション

売上高\*・営業利益

■ 売上高  
■ 営業利益(構造改革費用前)

単位:億円  
[]:営業利益率  
( ):前年比



### 売上高

9,008億円 (前年比 4.8%減)

- 光学デバイスやグラフィックシステムの市場回復が遅れたもののフラットパネルディスプレイ材料は過去最高の売上。
- 為替円高影響 △361億円 (△3.8%)

### 営業利益

構造改革費用前 617億円 (前年比 113.8%増)  
構造改革費用後 △26億円 (赤字化)

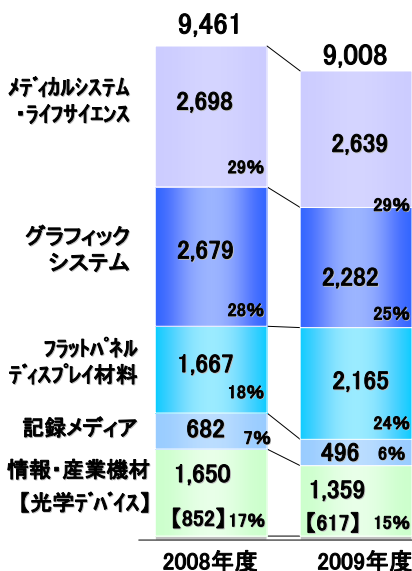
- フラットパネルディスプレイ材料の増収により、大幅な増益。

\*セグメント間取引消去後

# 事業別セグメント情報

### サブセグメント売上高

単位:億円  
%:売上構成比



### メディカルシステム・ライフサイエンス

2,639億円 (前年比: 2%減)

- 景気後退やフィルム需要減の影響により売上は減少。
- 低価格・小型FCR「FCR PRIMA」の販売を新興国から日・米・欧にも展開。
- デジタルX線画像診断装置「CALNEO」シリーズのラインアップの拡充や乳がん検査用X線撮影装置「AMULET」等の高付加価値製品の販売も強化。
- 「SYNAPSE」等医用画像情報ネットワークシステムの売上は順調に拡大。
- 医薬品では、インフルエンザ治療薬「T-705」が国内でフェーズⅢ、米国でフェーズⅡ臨床試験を開始。「ゾシン」\*、「ジェニナック」\*\*の販売が好調に推移。

### グラフィックシステム

2,282億円 (前年比: 15%減)

- 出版物や新聞紙面の減少により印刷材料全般の売上が減少。中国をはじめとする新興国では需要が回復基調。
- ワイドフォーマットUVインクジェットシステムがハイト機種を中心に販売好調。

### フラットパネルディスプレイ材料

2,165億円 (前年比: 30%増)

- 中国政府の内需振興政策を中心に液晶TVの需要が拡大し、WVフィルム、フジタック共に販売好調。当事業として過去最高の売り上げを記録。
- 旺盛な需要に応え、09年7月にはWVフィルム第9工場、12月にはフジタック第3工場第2ラインを本格稼働。

### 情報・産業機材

1,359億円 (前年比: 18%減)

- 光学デバイス分野では、カメラ付き携帯電話用レンズユニットの受注が回復傾向。
- 大手半導体メーカー向けArFレジストの採用も固まり今後先端分野の販売も堅調に推移する見通し。

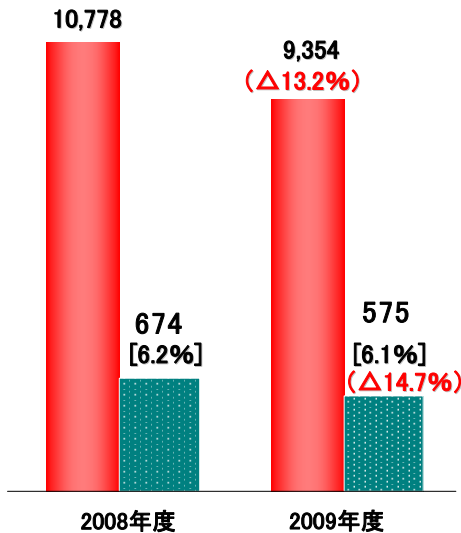
\*「ゾシン」:肺炎、敗血症、腎盂腎炎、複雑性膀胱炎に用いる注射剤、\*\*「ジェニナック」:呼吸器、耳鼻科領域の感染症に用いる経口剤

## ■ドキュメントソリューション

### 売上高\*・営業利益

■ 売上高  
■ 営業利益(構造改革費用前)

単位: 億円  
[]: 営業利益率  
( ): 前年比



\*セグメント間取引消去後

#### 売上高

9,354億円(前年比 13.2%減)

- 需要低迷と為替の円高影響により減少。  
アジア・オセアニア地域、米国ゼロックス社向け輸出は第4四半期から対前年で増収。
- 為替円高影響 △283億円(△2.6%)

#### 営業利益

構造改革費用前 575億円(前年比 14.7%減)  
構造改革費用後 322億円(前年比 35.1%減)

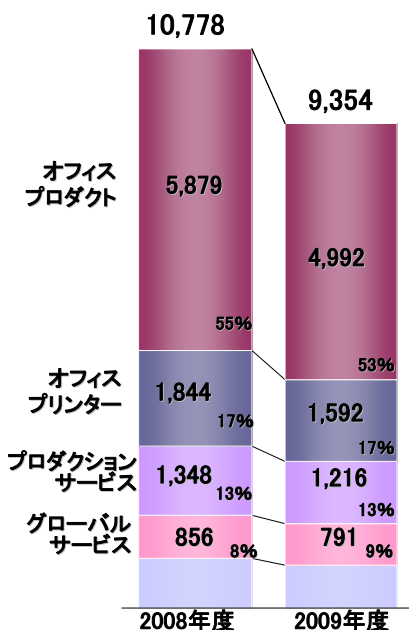
- 売上が大幅に減少する中、原価低減、販管費の管理強化・効率化を徹底。

構造改革費用前営業利益は第3四半期から対前年で増益。

# 事業別セグメント情報

### サブセグメント売上高

単位: 億円  
%: 売上構成比



オフィスプロダクト 4,992億円 (前年比: 15%減)

- 国内は新製品の販売好調と大型商談の成約により、レンタル設置を含む出荷台数が増加。コピー枚数も第4四半期以降増加。
- アジア・オセアニア地域は中国市場での販売台数増加により増加。米国ゼロックス向け輸出はモノクロ機が牽引し第4四半期以降増加。

オフィスプリンター 1,592億円 (前年比: 14%減)

- 国内は需要減少により販売台数が減少。米国ゼロックス社向け輸出は第4四半期以降増加。
- アジア・オセアニア地域では、中国及びその他アジア諸国での好調により、販売台数が大幅に増加。

プロダクションサービス 1,216億円 (前年比: 10%減)

- 国内は販売台数が減少したものの、ライトプロダクション・カラーシステムの販売が堅調。
- ライトプロダクション・カラーシステムの販売好調により、アジア・オセアニア地域は販売増、米国ゼロックス向け輸出も前年並みを確保。

グローバルサービス 791億円 (前年比: 8%減)

- 企業の投資水準低下が影響し、国内外で売上が減少したが、業務効率化への関心を背景に、マネージド・プリント・サービスが伸長。

■ 2009年度第4四半期連結業績

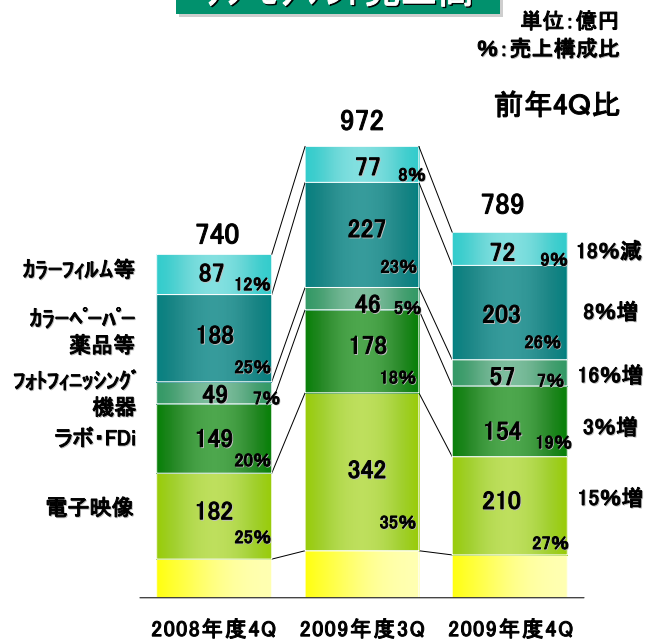
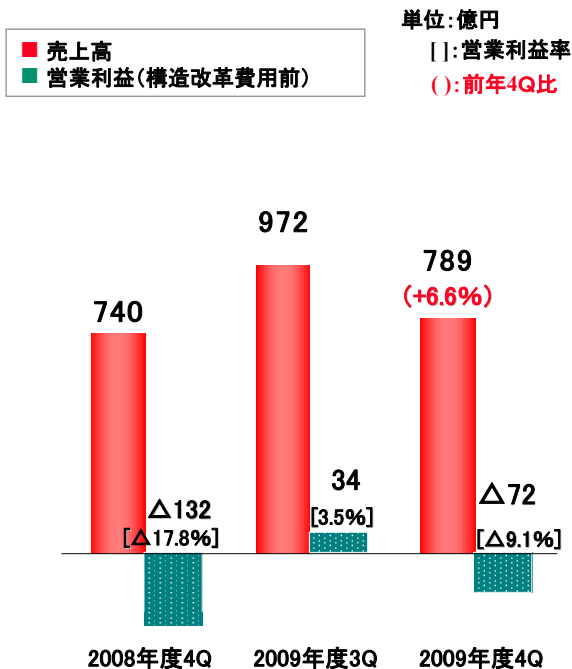
(単位:億円)

	2008年度 第4四半期		2009年度 第4四半期		増減	
					金額	%
売上高	100.0%	5,301	100.0%	5,846	+545	+10.3
構造改革費用前 営業利益	-3.5%	-187	6.5%	380	+567	-
構造改革費用	5.0%	265	13.3%	777	+512	+192.9
構造改革費用後 営業利益	-8.5%	-452	-6.8%	-397	+55	-
税金等調整前 四半期純利益	-8.8%	-469	-7.1%	-413	+56	-
当社株主帰属 四半期純利益	-3.6%	-190	-5.4%	-314	-124	-
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益		-38.74円		-64.37円		-25.63円
為替 :米ドル		94円		91円		-3円
:ユーロ		124円		125円		+1円

■ イメージング ソリューション 第4四半期

売上高\*・営業利益

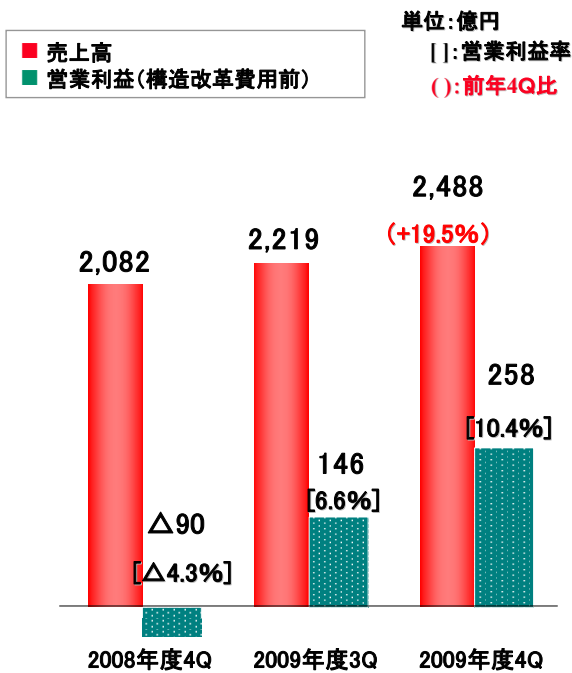
サブセグメント売上高



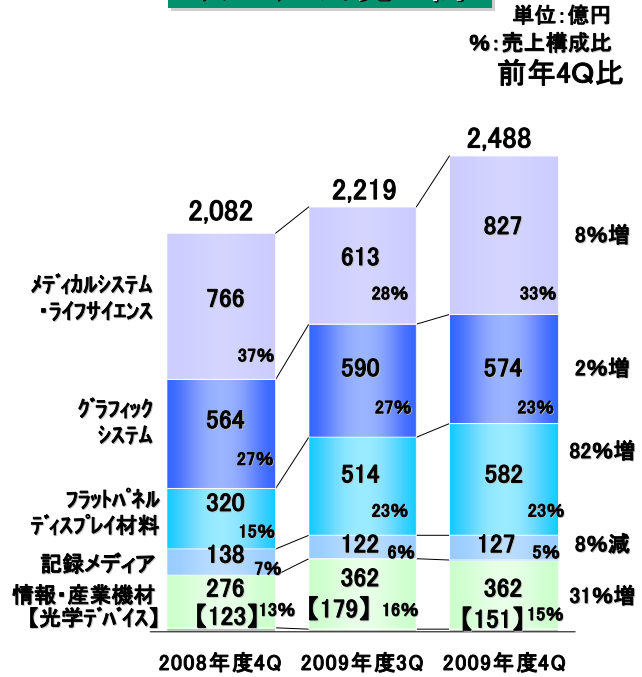
\*セグメント間取引消去後

■ インフォメーション ソリューション 第4四半期

売上高\*・営業利益



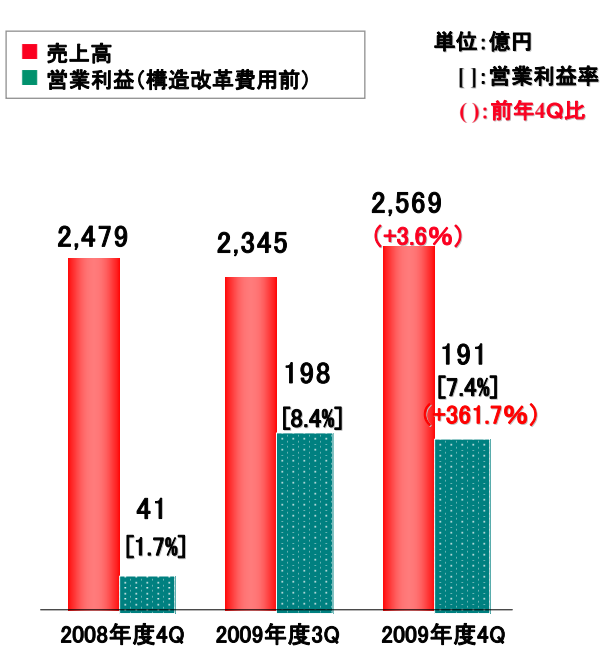
サブセグメント売上高



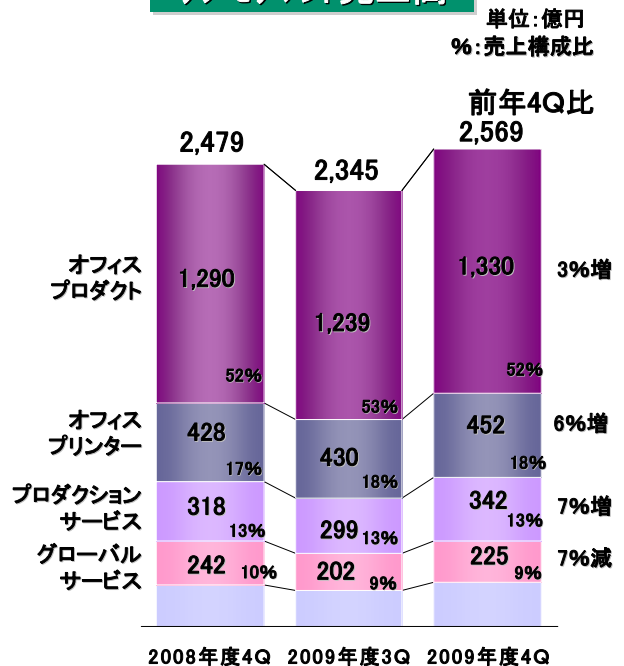
\*セグメント間取引消去後

■ ドキュメント ソリューション 第4四半期

売上高\*・営業利益



サブセグメント売上高



\*セグメント間取引消去後



■ 国内・海外別売上高

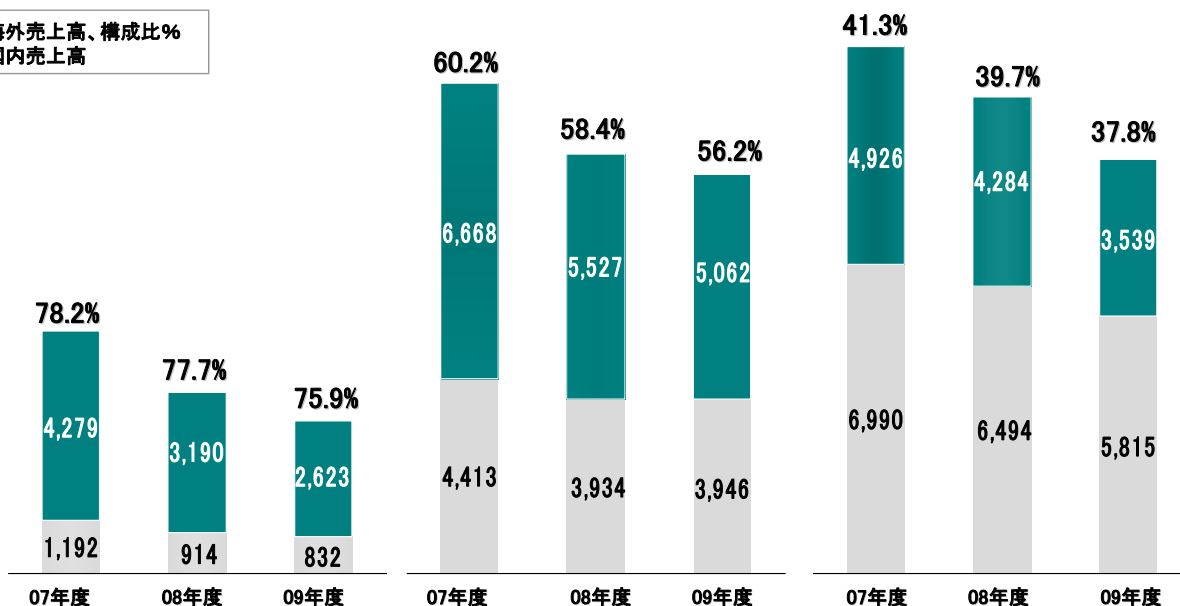
(単位:億円)

イメージング

インフォメーション

ドキュメント

■ 海外売上高、構成比%  
■ 国内売上高



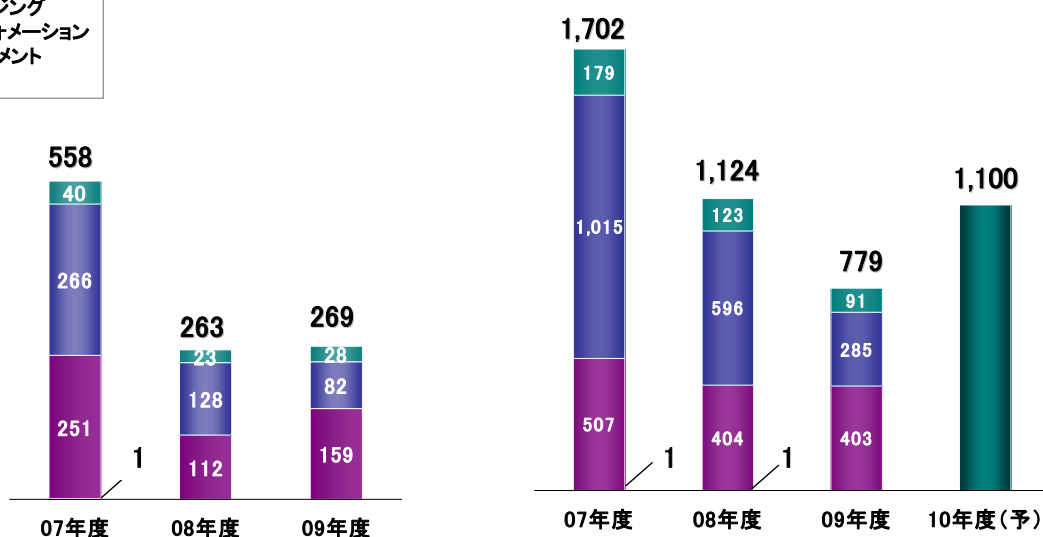
■ 有形固定資産の設備投資額※

(単位:億円)

第4四半期

年度

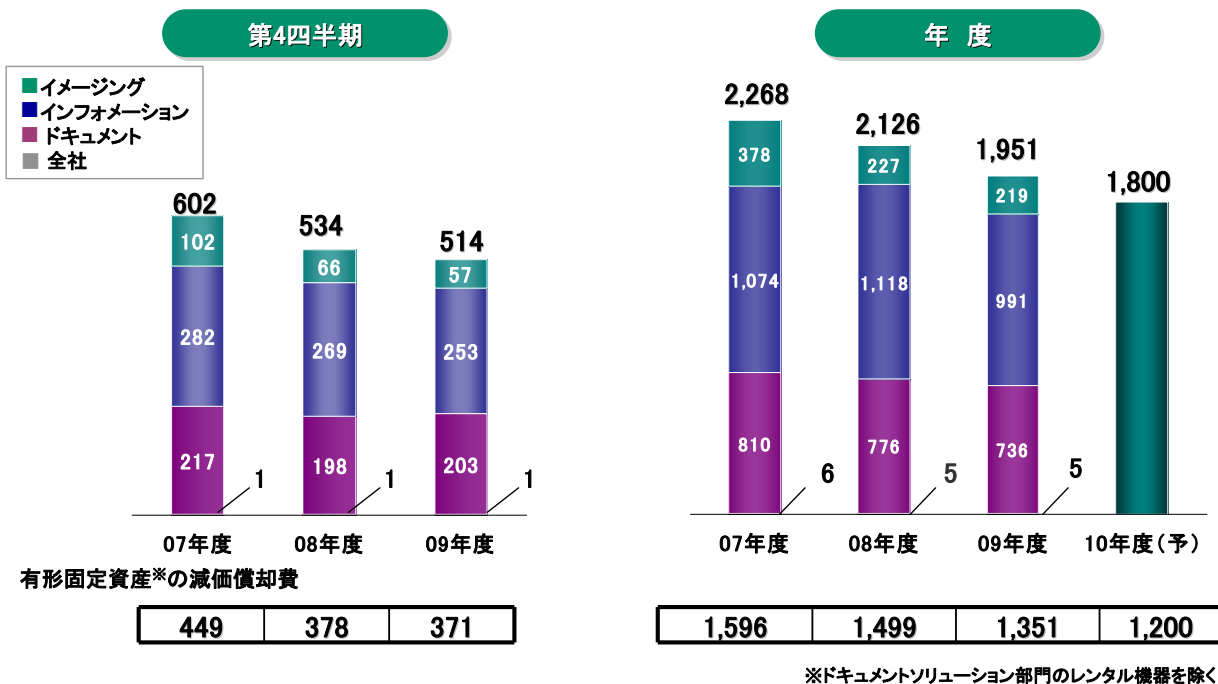
■ イメージング  
■ インフォメーション  
■ ドキュメント  
■ 全社



※ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

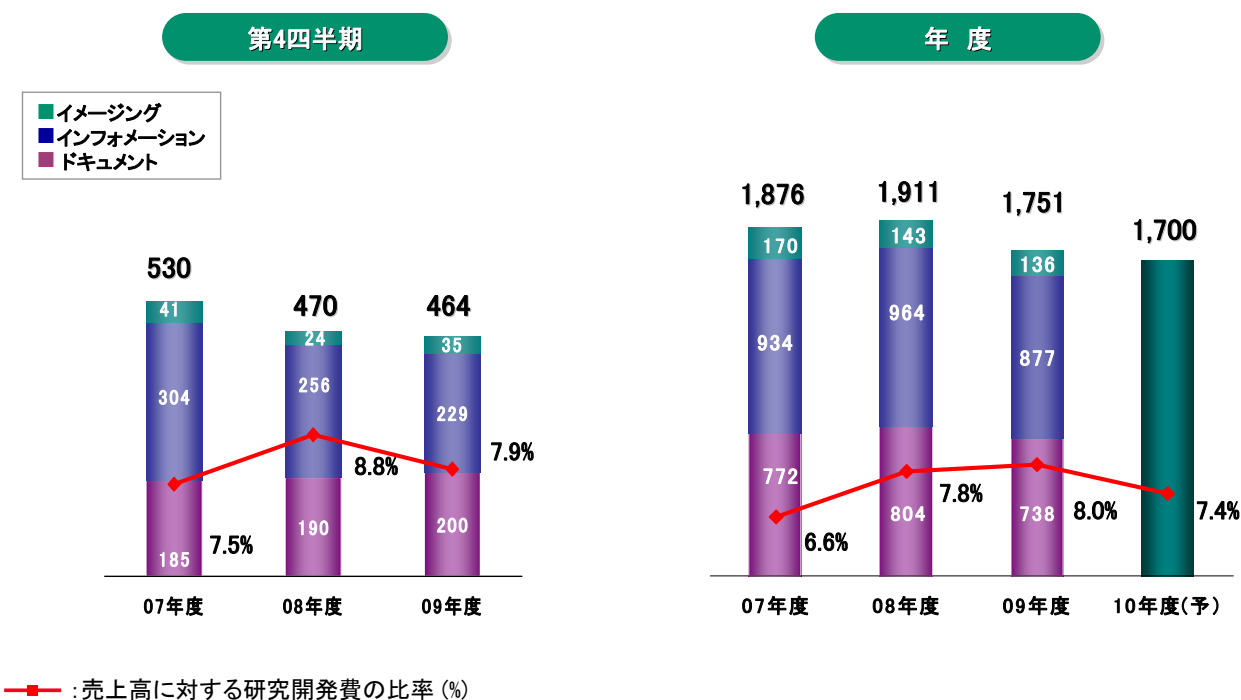
## ■ 減価償却費

(単位:億円)



## ■ 研究開発費

(単位:億円)

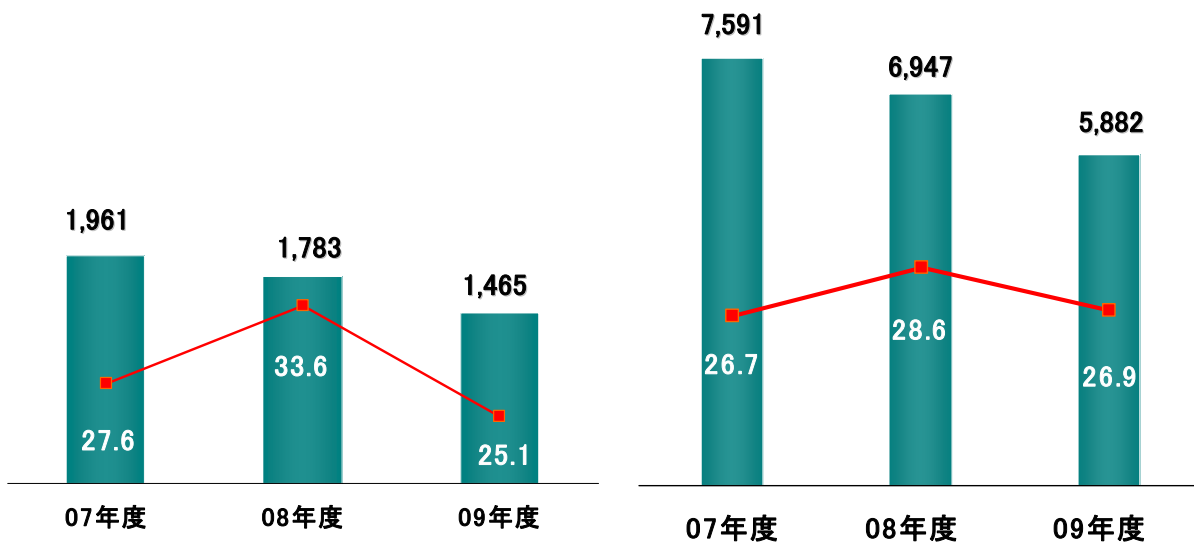


■ 販売費及び一般管理費

(単位:億円)

第4四半期

年度



—■— : 売上高に対する販売費及び一般管理費の比率 (%)

■ 連結貸借対照表

(単位:億円)

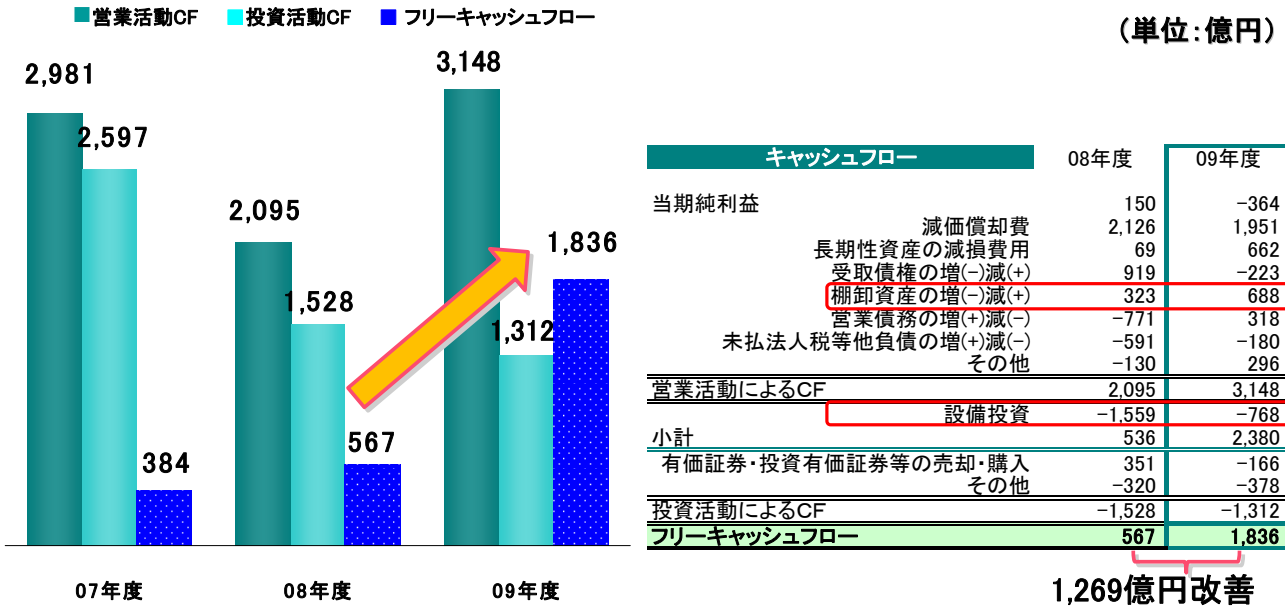
	07年度末	08年度末	09年度末		07年度末	08年度末	09年度末
現金及び現金同等物	3,309	2,701	4,062	長短社債及び借入金	3,700	3,215	2,956
受取債権	5,969	4,725	4,950	支払債務	3,428	2,215	2,616
棚卸資産	4,168	3,683	3,031	その他流動固定負債	5,022	4,814	3,944
有価証券 その他流動資産	1,674	1,918	2,062	<b>負債計</b>	<b>12,150</b>	<b>10,244</b>	<b>9,516</b>
<b>流動資産計</b>	<b>15,120</b>	<b>13,027</b>	<b>14,105</b>	株主資本計	19,224	17,563	17,461
有形固定資産	7,764	6,980	6,017	非支配持分	1,290	1,159	1,297
営業権	3,268	3,290	3,259	<b>純資産計</b>	<b>20,514</b>	<b>18,722</b>	<b>18,758</b>
投資有価証券 その他資産	6,512	5,669	4,893	<b>負債・純資産合計</b>	<b>32,664</b>	<b>28,966</b>	<b>28,274</b>
<b>固定資産計</b>	<b>17,544</b>	<b>15,939</b>	<b>14,169</b>				
<b>資産合計</b>	<b>32,664</b>	<b>28,966</b>	<b>28,274</b>				

期末日為替レート	07年度末	08年度末	09年度末
米ドル	100	98	93
ユーロ	158	130	125

(単位:円)

■ フリーキャッシュフロー

ROE改善へ向け事業を「事業ROA」・「事業付加価値」・「事業CF」で管理。  
設備投資の選択と在庫削減によりフリーキャッシュフローは大幅に改善



	08年度	09年度
当期純利益	150	-364
減価償却費	2,126	1,951
長期性資産の減損費用	69	662
受取債権の増(-)減(+)	919	-223
棚卸資産の増(-)減(+)	323	688
営業債務の増(+)-減(-)	-771	318
未払法人税等他負債の増(+)-減(-)	-591	-180
その他	-130	296
営業活動によるCF	2,095	3,148
設備投資	-1,559	-768
小計	536	2,380
有価証券・投資有価証券等の売却・購入	351	-166
その他	-320	-378
投資活動によるCF	-1,528	-1,312
フリーキャッシュフロー	567	1,836

1,269億円改善

■ 富山化学工業(株)新薬開発スケジュール

開発番号	薬効	地域	開発段階					剤形
			非臨床試験	P I	P II	P III	申請	
T-3762	ニューキノロン系合成抗菌剤	日本	[進捗バー]					注射*
T-614	抗リウマチ剤	日本	[進捗バー]					経口
T-3811	ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤	日本	[進捗バー]					注射**
		米国	[進捗バー]					経口/注射
		欧州	[進捗バー]					
T-705	抗ウイルス剤	日本	[進捗バー]					経口
		米国	[進捗バー]					
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療剤	米国	[進捗バー]					経口
T-5224	抗リウマチ剤	日本	[進捗バー]					経口
		海外	[進捗バー]					
T-2307	抗真菌剤	米国	[進捗バー]					注射
T-1106	抗ウイルス剤	日本	[進捗バー]					経口

\* 発売中の「バシル点滴静注液」の用量追加

\*\*経口剤は「ジェニナック錠」として発売

※前回(2010年1月29日)公表時からの変更点: T-705 2010年2月 米国でP II 開始

■ 為替、人員、株主構成

● 為替

(単位:円)

	2008年度					2009年度					2010年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	101	1Q	2Q	3Q	4Q	93	(予) 90
米ドル	104	108	97	94	101	97	94	90	91	93	90
ユーロ	163	162	128	124	145	133	133	133	125	131	125

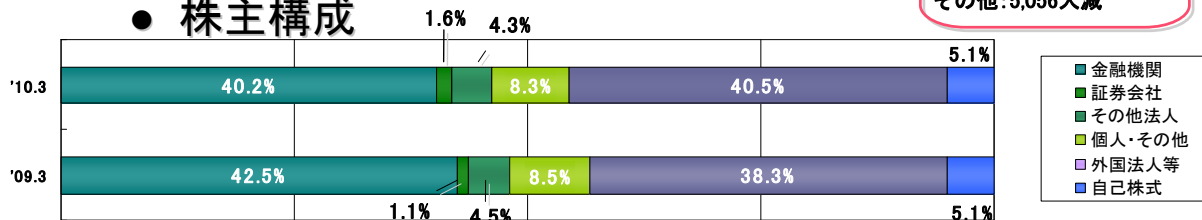
\* 為替感応度(年間)(対営業利益) US \$ 10億円 ユーロ 5億円

● 人員

	2009.3末	2009.6末	2009.9末	2009.12末	2010.3末
連結	76,252	75,929	75,938	75,333	74,216

対2009.3末 2,036人減  
中国:2,457人増  
新規連結:563人増  
その他:5,056人減

● 株主構成



わたしたちは、先進・独自の技術をもって、  
最高品質の商品やサービスを提供する事により、  
社会の文化・科学・技術・産業の発展、  
健康増進、環境保持に貢献し、  
人々のクオリティ オブ ライフのさらなる向上に寄与します。

富士フイルム ホールディングス株式会社

経営企画部 IR室

<http://www.fujifilmholdings.com>